

ウイリアムの亡霊

- 1 甲鐘^{かね}が鳴り ミサがおわり
人がみな寝しずまった
クラーク・ソンドズがうめきつつ
マーガレットの窓辺にあらわれた
- 2 「眠っているかい マーガレット
それともおきているのかい
ぼくがおまえにあげた
信念と真心を返しておくれ」
- 3 「信念と真心は返せない
二人の愛は裂^さかれない
あなたが部屋へ入ってきて
頬^{ほほ}と顎^{あご}に接吻^{せつぶん}をしてくれなけりや」
- 4 「ぼくの唇はとても冷たい マーガレット
いまでは土の臭いにする
おまえの唇に接吻すれば
おまえの命は長くない
- 5 「おんどりがたのしく鳴いている
野鳥^{とり}が夜明けを告げている
信念と真心を返しておくれ
そうしてぼくを行かせておくれ」
- 6 「信念と真心は返せない
二人の愛は裂かれない
難産で死ぬ女の行く末を
わたしに教えてくれなけりや」
- 7 「女の寢床は天国の
あ・ら・せ・い・と・うに囲まれて
神の御許^{みもと}につくられる そして
いとしい人に出会うだろう
- 8 「おんどりがたのしく鳴いている
野鳥^{とり}が夜明けを告げている
神の御賛歌^{みとうた}がうたわれる

さあ もうぼくは行かねばならぬ」

9 マーガレットはきらりと光る長い杖をとりだして

そのうえに真心をなでつけました

そしてたいそううめきつつ

出窓で杖をわたしました

10 「ありがとう マーガレット

ほんとうにありがとう

死者が戻るといふときには

ぼくもおまえに会いにくる」

11 靴下と靴をはき 上着をつけたマーガレットは

扉を越えて追いかけてました

やってきたのは緑の森

クラークの姿が見えません

12 「その枕辺へ入れるかしら クラーク

その足もとへ入れるかしら

その脇へ入れるかしら

そこでわたしは眠りたい」

13 「この枕辺へは入れない マーガレット

この足もとへは入れない

でもこの脇には

女が眠る場所がある

14 「冷たい土がぼくの蒲団

それはまた経帷子

ぼくの寝床は土の中

飢えた虫たちと眠るのだ

15 「冷たい土がぼくの蒲団

それはまた経帷子

露がおりましたら

たちまち寝床はぬれそぼつ」